



もの頃から容易に触れることのできる大変意義のある活動として、現在まで続いてきました。

本市には、安中市書道協会と松井田町書道協会があり、それぞれの団体が書道の展示会を行うなど、活発な活動を続けています。そこで今回、安中市書道協会の会長を務める上原修陽さんに安中の書道について、お話を伺いました。

「学校の先生が中心となり、運営されている「竹心」は全国でも非常に珍しいシステムであり、本



安中書道協会会長
上原 修陽 さん

市でしか行われていないものです。創刊当初は現在のように昇級・昇段制度はありませんでした。当時の先生の多くが書道を学んでいたため、皆さんの習字技術を向上させたいという思いがあり、碓氷郡の先生方が、親しみやすく手軽に取れる雑誌を作ろうと計画したのがきっかけのようです。昔も今も先生方の苦労は大変なものですが、ここまで続けてきたのは先生方の協力があってのことです。負担が大きいとは思いますが、これからの子どもたちのためにも、ぜひ続けていただきたい

と強く思います。

現在、学校の書写の授業は、時間数が減っており、書道に触れる機会が少なくなってしまうているのは非常に残念です。

私たち書道協会でも学校支援事業の一つとして希望があれば小中学校に指導者を派遣し、できる限

りの協力はしていきたい。安中市や群馬県のみならず、全国的に書道が下火になってきている今日、できることをして次の世代につなげていきたいと思えます。」

このように話してくださいました。現代社会は、パソコンやスマートフォンの普及による手書きの文字離れが進んでいますが、書道としての毛筆の字の美しさや芸術性は、今後も消えることのないものでしょう。また、お手本と自身で書いた字を見比べ、より良いものを作り上げるのはどうしたらよいか試行錯誤し、考えることで、物事をしっかりと理解し、客観的な判断をすることも可能になります。

本市で行われている「竹心」は、60年以上も前に始まりましたが、現在まで続いている要因として、自身で書いた字が冊子に掲載されたり、昇級・昇段することへの楽しさを見出し、「書」の魅力を感じることができるところにあります。

「竹心」、もとより「書道」という日本の伝統文化が安中の地にはしっかりと根付いています。

